

令和5年度 南牧中学校 第2回 学校評価の結果

| 評価の観点 | 評価項目 | 方 策 | 具体的数値目標 | 評価のための設問 | 自己評価① A・B合計 | | | | 自己評価① A・B合計 | | | | |
|-----------|------|---------------------------|--|--|--|----|----|---|--|----|----|-----|--|
| | | | | | 保護者 | 生徒 | 学校 | 改善策 | 保護者 | 生徒 | 学校 | 改善策 | |
| 確かな学力の向上 | 1 | 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 | 生徒の探究意欲を喚起する「めあて」の設定、生徒同士の対話を中心とした思考を深める「授業展開」、自らの主体的な家庭学習につなげる「まとめ」と「振り返り」を日常化し、課題解決的・体験的な学習活動に努める。 | 保護者と生徒、学校の80%以上が、授業が分かると答えている。 | (お子さんは、君は、生徒は) 授業の内容を理解していますか。 | A | A | A | ・「学習の手引き」等を随時活用する。 ・「めあて」「まとめ」「振り返り」を生徒を中心に行い、学びと自身の成長を実感できるようにする。 ・学習計画の中で「基礎基本」を身に付ける時間を確保するとともに、生徒自身にも必要な学習を考えさせて家庭学習に結びつくようにする。 ・対話的な学習を計画的に行う。 ・9年間の学習が結びつくよう、既習事項に気付かせ活用できる授業づくりをする。 | A | A | A | ・既習事項の基礎基本を振り返る時間を確保しながら、授業を計画していく。 ・授業内容の復習をワークなどを使ってその日のうちにできるような課題の出し方をし、定着を図る。 ・授業から家庭学習、家庭学習から授業につながる学習を計画的に行う。 |
| | | | 学校の80%以上が、「基礎基本」「学習習慣の定着」を基盤とした「主体的」な学習活動をしていると答えている。 | (学校は) 「基礎基本」「学習習慣の定着」を基盤とした「主体的」な学習活動をしていますか。 | - | - | B | | - | - | A | | |
| | 2 | 学習における個別最適化の実現 | 生徒の個性や能力に配慮し、授業中の個別指導を充実させ、学力向上に繋げる。 ICTの有効活用により、個別最適な学びと協働的な学びを充実させた授業改善に取り組む。 | 保護者と生徒、学校の80%以上が、個別最適な学びと協働的な学びが充実していると答えている。 | (お子さんは、君は) 自分に合った学び方をしたり、友達と協力して学び合ったりしていますか。 | B | A | - | ・個別最適な学習と協働的な学習の成果が保護者にも伝わるように、授業の様子もWebページにアップする。 | A | A | - | ・継続 |
| | | | | (学校は) 個別最適な学びと協働的な学びを充実させていますか。 | - | - | B | ・学習支援員による個別指導を充実させる。 ・生徒の学習進度に合った課題を提示し、生徒自身が選択して学習を進められる時間を作る。 ・個別(見通し)→班別(協働)→全体(共有・交流)→個別(まとめ)等、学習形態を工夫した学習計画を立てる。 | - | - | A | ・継続 | |
| | 3 | 外国語教育に特化した授業計画の実践 | 英語のコミュニケーション能力をより高めるために、ALTとのやりとりや英検を積極的に活用する。 | 保護者と生徒、学校の80%以上が、ALTや英検を活用して、英語でコミュニケーション能力を高めていると答えている。 | (お子さんは、君は、生徒は) ALTと積極的に関わったり、英検を活用したりして、英語でのコミュニケーション能力を高めていますか。 | B | B | A | ・英語が話せる楽しさを実感できる英語や他教科の授業、行事等を行う。 ・生徒にも保護者にもコミュニケーション力が高まっていることを伝え、自信を持たせる。 ・日常でも積極的な会話を進める。 | B | B | A | ・完璧な英語でなく、簡単な英語、知っている英語でコミュニケーションがとれる活動を取り入れて英語の楽しさを実感できるようにする。 ・Englishコーナーの内容をその時だけでなく、クラス内などでも積極的に取り上げて関心を持たせる。 ・英語での取組を家庭や地域に発信する。 |
| 豊かな人間性の育成 | 4 | 互いに認め合い、郷土を愛する心の育成 | 生徒一人一人が尊重され、自己存在感や自己有用感を実感できる意図的な活動をすすめ、思いやりや協調性を育み、互いに認め合う温かな集団づくりに取り組むとともに、郷土に誇りと愛着を抱く心の教育を推進する。 | 保護者と生徒、学校の80%以上が、互いに認め合いながら、自己存在感や自己有用感を持って学校生活を送っていると答えている。 | (お子さんは、君は、生徒は) 相手の気持ちを考え、自分や相手を大切にしながら過ごしていますか。 | B | A | A | ・生徒指導を全職員で行い、気になる言動は、すぐに指導していくことを続ける。反対に、よい行いは大きく取り上げ、職員や生徒、保護者にも共有するようにする。 | A | B | A | ・教職員間で共通理解を図りながら常時指導を充実させる。 ・SCの授業内容などを継続して意識させ、お互いを認められる雰囲気づくりに努める。 ・自分事としてとらえられる道徳の授業を展開する。 |
| | 5 | 社会性の育成 | 各種学校行事や地域、関係団体との交流等を通して、価値ある体験活動を推進し、自律心や創造力、協調性等の社会性の育成を図る。 | 保護者と生徒、学校の80%以上が、学校行事等において、地域や関係団体との交流を通して、生徒の社会性を育成することができていると答えている。 | (お子さんは、君は、生徒は) 地域と交流することで、社会性が育っていますか。 | A | B | A | ・積極的な交流ができるようめあてを持って取り組ませる。 ・事後指導では、できたことを認め合わせ、次回へ生かせるようにする。 | A | A | A | ・継続 |
| | 6 | 学校図書館等の利活用 | 読書の励行や学校図書館の利用など、生徒が進んで読書に取り組める環境を整え、読書に親しむ習慣づくりに努める。 | 保護者と生徒、学校の80%以上が、生徒が読書に進んで取り組んでいると答えている。 | (お子さんは、君は) 読書に進んで取り組んでいますか。 | C | C | | ・朝読書の時間が確保できるよう全校で徹底する。 ・家庭と連携した読書の取り組みをする。 ・委員会などで図書室の利用を促す取組を行う。 | C | C | - | ・朝読書の時間を確保する。 ・家庭と連携した読書の取り組みをする。 ・委員会などで図書室の利用を促す取組を行う。 ・昼休みに、図書室に行くように促す。 ・家庭での読書を計画的に行える取組をする。 |
| | | | | | (学校は) 読書の励行や学校図書館の利用など、生徒が進んで読書に取り組める環境を整え、読書に親しむ習慣づくりに努めていますか。 | - | - | A | ・委員会などで図書室の利用を促す取組を行う。 | - | - | A | |
| | 7 | 各種教育と関連させた道徳の実践 | 道徳の時間を「要」とし、道徳の時間と各教科領域、豊かな体験活動を横断的に関連付け、全校態勢で教育活動全体を通して心に響く道徳教育を推進する。 | 学校の80%が、道徳の時間と各教科領域、豊かな体験活動を関連付け、心に響く道徳教育を推進していると答えている。 | (学校は) 道徳の時間と各教科領域、豊かな体験活動を関連付け、心に響く道徳教育を推進していますか。 | - | - | A | ・継続 | - | - | A | ・継続 |
| | 8 | キャリア教育全体計画に基づいた指導の充実 | キャリア教育全体計画に基づき、組織的・系統的に望ましい勤労観や職業観の育成に努め、自ら未来を切り開き社会に貢献しようとする態度や意欲を育てる。 | 保護者と生徒、学校の80%以上が、キャリアパスポート等を活用し、自ら未来を切り開き社会に貢献しようとする態度や意欲が育っていると答えている。 | (お子さんは、君は、生徒は) 行事や授業を通して、自分の生き方を考えるとともに、社会に貢献しようとする思いが育ちましたか。 | A | B | A | ・キャリアパスポートを年計に位置付け、計画的に活用できるようにする。 ・将来を見据え、生徒・保護者が共に見直しをもって進路を考えられるよう、積み重ねていく。 | A | A | A | ・継続 |

令和5年度 南牧中学校 第2回 学校評価の結果

| 評価の観点 | 評価項目 | 方 策 | 具体的数値目標 | 評価のための設問 | 自己評価① A・B合計 | | | | 自己評価① A・B合計 | | | |
|--------------------|-----------------------|--|--|---|--|----|----|--|-------------|----|----|---|
| | | | | | 保護者 | 生徒 | 学校 | 改善策 | 保護者 | 生徒 | 学校 | 改善策 |
| 健やかな体づくり | 9 主体的で健康的な生活習慣の定着 | 新型コロナウイルス対応のための新しい生活習慣を徹底し、生徒が自ら主体的に健康的な生活を送ることができるよう指導していく。また、学校医、学校歯科医、栄養士、保健師等との連携を密にして、保健・健康教育を充実させる。 | 保護者と生徒の80%以上が、食事や睡眠時間に留意して、健康的な生活を送っていると答えている。 | (お父さんは、君は) 食事や睡眠時間に気を付けて、健康的な生活を送っていますか。 | B | B | | ・学校保健委員会で取り上げた内容をもう一度振り返り、生活を見直す機会を持つ。 ・保護者への啓発を引き続き行う。 | B | B | - | ・保護者への啓発を引き続き行う。 ・学校保健委員会の取組を定期的に保護者に伝える。 ・生徒自身が家庭生活を振り返り、改善へ気持ちが向くようにする。 |
| | | | 学校の80%以上が、学校医、学校歯科医、栄養士、保健師等との連携を密にして、保健・健康教育を充実させていると答えている。 | (学校は) 学校医、学校歯科医、栄養士、保健師等との連携を密にして、保健・健康教育を充実させていますか。 | - | - | A | | - | - | A | |
| | 10 体力・精神力の向上 | 効果的な少人数指導を採り、学年の枠を取り払った体育科授業の充実を図るとともに、計画的・系統的な実践を通して体力・精神力の向上、運動に親しむ態度の育成を目指す。 体力向上プランの組織的な取組に努める。 | 保護者と生徒、学校の80%以上が、生徒は運動(体育や部活動を含む)や地域のスポーツ活動などに進んで取り組んでいると答えている。 | (お父さんは、君) 学校や家庭、地域で、積極的に運動に取り組んでいますか。 | A | A | | ・継続 | A | B | - | ・授業内だけでなく、家庭でもできる関連した補強運動等を積極的に紹介していく。 |
| | | | 学校の80%が、体力向上プランの組織的な取組により、生徒が運動に親しんでいると答えている。 | (学校は) 体力向上プランの組織的な取組により、生徒が運動に親しませていますか。 | - | - | A | | - | - | A | |
| 組織的で活力ある学校づくり | 11 健康で、協調性と向上心のある職場作り | 互いの特性を認め、学び合い、高め合うことのできる教職員集団づくりに努める。 業務の改善や効率化、行事精選等の視点から校務を見直し、全職員のワークライフバランスを考えた働き方改革を推進する。 | 学校の80%以上が、互いの特性を認め、学び合い、高め合うことのできる教職員集団づくりに努めていると答えている。 | (学校職員は) 互いの特性を認め、学び合い、高め合うことのできる教職員集団づくりに努めていますか。 | - | - | B | ・生徒や教員同士の良かったことなどを共有する機会をもつ。 ・協働の中で学び合い、認め合えるようにする。 | - | - | A | ・継続 |
| | | | 学校の80%以上が、業務の改善や効率化、行事精選等の視点から校務を見直し、ワークライフバランスを考えた働き方改革を推進していると答えている。 | (学校職員は) 業務の改善や効率化、行事精選等の視点から校務を見直し、ワークライフバランスを考えた働き方改革を推進していますか。 | - | - | A | | - | - | A | |
| | 12 規律ある職場作り | 勤務規律の確保を徹底する。 | 学校の80%以上が、勤務規律の確保を徹底しているとして答えている。 | (学校職員は) 勤務規律の確保を徹底していますか。 | - | - | A | ・継続 | - | - | A | ・継続 |
| 安全で安心な学校づくり | 10 安全管理の徹底と防災教育の充実 | 学校安全マニュアルの共通理解により、危機管理の徹底に努める。 学校施設整備や通学路の安全点検を徹底し、問題点への迅速な対応に努める。 常に危機意識をもちながら安全教育を充実させ、より実践的な避難訓練を継続して、生徒とともに教職員も自己危機回避能力、自己安全管理能力のさらなる向上を目指す。 | 保護者と生徒、学校の80%以上が、学校安全マニュアルの共通理解により、危機管理の徹底に努めていると答えている。 | 校舎の中や校庭、通学路は安全だと思いますか。 | A | A | | ・継続 | A | A | - | ・継続 |
| | | | | (学校は) 校内や通学路の安全確保に努めていますか。 | - | - | A | | - | - | A | |
| | | | | 保護者・生徒、学校の80%以上が、避難訓練等により、自己の危機回避能力、自己安全管理能力を高めていると答えている。 | (お父さん、あなた、生徒は) 登下校時や学校生活で安全に過ごすために気を付けていますか。 | A | A | A | ・継続 | A | A | A |
| 地域とともにある信頼される学校づくり | 13 地域に貢献する活動 | 地域行事への積極的な参加、ボランティア活動、職場体験学習等を通して総合的な学習の時間を充実させながら、地域の自然・歴史・文化への関心と誇りをもたせ、将来までつながる郷土愛を育む。 | 保護者・生徒、学校の80%以上が、学校と地域とが協力することで、南牧村に関心をもち、郷土愛が育まれていると答えている。 | (お父さん、あなた、生徒は) 学校の地域と協力した活動により、南牧村に対する郷土愛が育っていますか。 | A | A | A | ・継続 | B | A | A | ・継続 |
| | | | 学校の80%以上が、義務教育学校設立に向けて、学校運営協議会との連携をより強化し、学校・家庭・地域間の協働態勢を確立するとともに、職員や生徒の小中学校間連携を一層推進し、義務教育9年間を見据えた一貫性のある教育課程の在り方を具現化する。 | (学校は) 義務教育学校設立に向けて、学校運営協議会との連携をより強化するとともに、職員や生徒の小中学校間連携を進めていますか。 | - | - | A | ・継続 | - | - | A | ・継続 |
| | 14 地域とともに作る学校教育 | 学校Webページや各種通信等により、積極的な情報発信に努める。 | 保護者・生徒、学校の80%以上が、学校はWebページや各種通信等により、積極的な情報発信に努めていると答えている。 | Webページや各種通信等で、学校のことがわかりやすく伝わっていますか。 (学校は) (学校…Webページや各種通信等により、積極的な情報発信に努めていますか。) | A | A | - | ・生徒の活動がより分かる通信を作成する。 | B | B | - | ・教室で、通信の確認を生徒とともにに行い、内容の確認をする。 |
| | | - | - | A | - | - | A | | | | | |